

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7	3		東京都で定められた基準よりさらに広いスペースを確保しています。
	②	職員の配置数は適切であるか	7	3		職員配置基準より多い職員数を配置しています。活動内容によってさらに手厚く配置するなど、臨機応変に対応しています。基準配置では児童指導員と保育士に加え、常勤換算で1名以上となるよう指導員を配置しています。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	9	1	1	施設設備等は全てバリアフリー化されていますが、お子様の閉じこもり事故防止の措置として現在はエレベーターを停止し、日常的には階段を利用させていただいております。臨機応変に対応してまいります。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	2	7	1	事業記録やお子様の支援記録に必ず目を通し、当日の振り返りでその日の支援を記録し次回への引継ぎを行っています。PDCAサイクルに生かしていきます
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	2	7	1	開所して初めてのアンケートとなりました。頂きました貴重なご意見は職員全員で共有し、目標を立て工夫・改善に努めてまいります。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか				開所して間もないため、初めての自己評価結果としてホームページで公開しました。「支援の質」とは何か。初めて自己評価に向き合い、活発な議論を経て現状への共通認識を高めていく良い機会となりました。新たな1年の目標としてまいります。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか				第三者評価は現在は行っておりません。今後検討してまいります。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8	2		明星大学教授の星山麻木氏を施設にお迎えして「発達サポーター育星講座」を3回開催しました。さらに「くにぽんとアッキーの「音」を「楽」しむONGAKUの会」を講師にお迎えして身近な「音」を楽しむための研修を行いました。 外部研修としては東京都の発達障害者にかかわる各種の研修や大学等で開催される関連講座等は誰もが学べるよう職員全員に紹介し、参加を呼びかけています。 また興味ある研修や講習等を見つけた職員がチラシを掲示したり、職員一斉メールで情報提供を行うなど職員同士でも自己研鑽に取り組んでいます。職員が独自に受講した研修資料なども会議で共有できるよう配布しています。今後は学びの共有に努めます。 その他、法人としては職員資格取得支援事業に取り組み、希望者を募っています。

適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	10			管理者、児童発達支援責任者、言語聴覚士が子どもの発達状況、保護者のニーズをそれぞれの立場で把握・分析し、総合的に反映された計画となるよう作成しています。また首都大学東京大学院作業療法科学域小林教授にSVを受けながら進めてきましたが、施設としても作業療法士を配置したことで専門の立場からの分析をさらに計画に反映し、支援内容が伝わりやすくなるよう表現を改善していきます。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	2	7	1	来所される方の多くは標準化されたアセスメントツールでの検査をすでに相談機関等で済ませ、検査結果をご持参いただいています。そのため独自のツールを使用してきました。 ご家族が感じているお子様の困り感(課題の要因)を深く探ることを目的として感覚と動作についてのアセスメントを開始したところです。データ分析をもとに保護者の方への説明を順次進めています。 さらにヴァイランドⅡと「構音検査キット」を導入し、実施に向けて準備を進めております。より詳細に分析し、今後の支援内容に反映してまいります。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	8	2		おやつ作りや工作など毎月のプログラムについてはチームで立案しています。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	4		お子様の成長・発達をしっかりと見ながら、そのお子様の興味関心が今どこに向かっているのかを分析し、自発的に継続して取り組めるような活動・遊びを提案・提供できるように努めます。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3	7		初年度を終えた時点での反省点を生かして年間計画を早めにたて、長期期間中の行事等についてもより充実させていきます。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	5	5	1	実際の活動では個別活動と集団活動の時間を設定していますが、放課後等デイサービス計画への記載方法についてわかりやすく改善してまいります。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8	2		事前に支援ノートを確認し、打ち合わせに入っていますが、登所時間が早まると時間的に厳しい時もあります。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		7	3	送迎車の運転手を採用したことや仕事の軽減になったことで振り返りの時間が確保できるようになってきています。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	4		日々の支援の様子だけでは発達の検証は難しい部分もありました。この度お子様ひとり一人の検証の目安の一つとして感覚と動作のアセスメントを導入しました。保護者様にアセスメントにご協力をいただき、お子様の困り感(課題)の分析と日々の支援から見える成長の様子を合わせて今後の支援の検証・改善につなげてまいります。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	4	4		期間を決めて定期的に行ってまいりましたが、その結果を職員間で情報共有できるように改善します。

	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	1	8		再度、ガイドラインの総則の理解を徹底してまいります。
関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか				管理者、児童発達支援責任者が担当しています。
	㉑ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	9	1		必要に応じて学校との情報共有を行っています。初めて伺う学校へは事前にご挨拶し、送迎職員と担任の先生との顔合わせや送迎車の位置などの確認を行うことで、連絡調整がスムーズに行えるようにして頂いています。
	㉒ 医療的ケアが必要な子供を受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	該当なし			
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	4	1	保育所・幼稚園を訪問し園での生活状況の把握に努めてきました。児童発達支援事業所の支援計画や報告書の提出をお願いし、課題等についての把握に努めてきました。今後職員間での情報共有の在り方を改善します。
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	該当なし			
	㉕ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		4	3	東京都の研修や身近な大学の講座などの情報を頂くことで、職員に情報提供し、研修に参加しています。地域自立支援協議会子ども部会(年4回程度)が開催され、他の事業所との意見交換や助言を頂く機会となっています。今後はより多くの職員が研修に参加し、学びを深めていくよう努めます。
	㉖ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		5	6	公園での活動では、地域の子どもたちとのかかわりがもてる時もあり、今後も積極的に実施していきます。児童館のイベントへの参加では集団が苦手なお子様もいらっしゃいますので、継続的な利用にはつながっていません。今後は日程が合えば地域のイベントなどにも参加してまいります。
	㉗ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	9			管理者が参加しています。
	㉘ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5	4		送迎時に様子を伝えたり、連絡ノートで伝えるなど努力していますが、お話しできる環境も作れるよう工夫します。活動参観日等のご希望については今後年間予定の中で実施できるよう検討してまいります。
	㉙ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		2	4	電話や送迎時にお話を伺ったり、面談での相談などご家族の支援に努めていますが、ペアレント・トレーニングプログラムは実施できておりません。実施に向けて研修等で学んでまいります。発達障がいについての理解を深め、支援方法を学ぶ機会として、明星大学教授の星山麻木氏を迎えて「発達サポーター育星講座」を2019年度は3回開催しました。保護者の方々へもお知らせし、希望者に参加していただいています。また職員向けの学びのための書籍を保護者の方にも貸し出しています。当事者の保護者(お母さん)が会員となって活動されている「心育」のパンフレットを置いて紹介しています。

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5			契約時に管理者が行っています。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	3	3	1	通所の送迎時にお話したり、電話等でいつでも話しやすいよう心掛けております。言語聴覚士に加え作業療法士も配置いたしましたので、専門分野についてのご相談にも対応できるようになりました。日程調整など気軽にお申込み頂けるようお知らせしてまいります。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	2	3	父母の会の活動はありませんが、希望があれば積極的にご支援できるよう努めます。 初年度は保護者会が年1回にとどまってしまいました。家族交流の機会として生活クラブ協同村(キャンプ場)で流しそうめんを企画し、参加を呼びかけました。 今後は保護者の皆様の顔合わせの機会を年間計画に入れてまいります。気軽に参加していただける家族参加の企画を定期的で開催し、年間計画、会報、ホームページ等でお知らせしてまいります。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5	2	1	苦情への対応については契約時に重要事項説明書にて、ご説明をさせていただいております。施設においては管理者が苦情解決責任者となっておりますが並びに法人本部の統括責任者、さらに独自の取り組みとして第三者委員を2名(社会福祉士・保健師)お願いしておりますので、適切な対応に努めてまいります。 外部の窓口といたしましては、市の障害福祉課と福祉権利擁護センターの窓口のご紹介、さらに東京都社会福祉協議会の「福祉サービス運営適正化委員会事務局」のご紹介も記載しておりますので、必要時にはご活用ください。 また、お子様への周知につきましては、分かりやすい方法を工夫してまいります。 今後も保護者の方からのご意見には可能な限り話し合い、対応してまいります。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	9	1		毎月のお便りで活動の様子などを写真を掲載し、活動予定、連絡事項をお知らせしています。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	9			事務所内の鍵付き書庫を設置して全ての個人情報ファイルを保管しています。使用後の施錠、営業終了時には事務所の出入り口も施錠するなど十分注意して取り扱っています。写真撮影や掲載等、個人情報に関わる部分については事前に保護者の方々に説明・同意を書面でいただいております。破棄する書類はシュレッダー処理をしています。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7	1		ひとり一人に合わせて伝わりやすいように工夫しています。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		2	5	発達障がいについての理解と地域での支援をひろげていくために、施設に明星大学教授の星山麻木氏を迎えて「発達サポーター育星講座」を3回開催しました。地域住民の方々へも広報し、多くの方に参加していただき、施設内を見ていただく機会となっています。 桜並木通りという施設の好立地を生かして、桜・梨の花まつりに合わせて地域の方にもご参加いただけるイベントを企画してまいります。

非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	5	4		各マニュアルは策定し、順次訓練を実施してきました。保護者の方々が手に取りやすいよう図書棚に設置いたします。応急手当WEB講習を施設として開催し、消防職員の方による小児の心肺蘇生とAED操作訓練を受講しています。防犯訓練は多摩警察の協力をお願いし、これから実施を予定しています。その他、送迎車の運転手は法人が開催する安全運転講習並びに路上運転講習を受講するよう義務付けています。全ての職員で共有していきます。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	9	1	1	お子様と一緒に毎月1回開催しています。施設全体としては消防署のご指導をいただきながら消火訓練及び避難訓練を実施しました。また消防署防災担当職員の方を講師に迎え「水害等の避難訓練時の着眼点について」をテーマに研修を行い、洪水時の避難確保計画を策定しています。地震、火災、水害を想定した避難訓練・通報訓練などは職員向けと子どもたちと一緒に訓練も合わせて6回実施してきました。またMCA無線を施設に設置し、法人全体として月1回の安全確認の訓練と常勤職員は携帯での安否確認訓練を行っています。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7		1	管理者が虐待防止に関する責任者となり、虐待防止研修を行っています。職員のストレスチェックや相談体制も作り、相談機関の紹介ポスターを掲示しています。管理者が衛生推進者養成講習を修了しています。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	3	4	3	貸出図書の棚上に設置しております運営規程に身体拘束等の禁止を記載しています。生命または身体を保護するため緊急やむを得ず、身体拘束等を行う場合には、あらかじめ文書により、保護者の同意を得ることとしていますが、これまで特に該当するお子様がいないため、文書による同意をお願いしたことはありません。契約時に強度行動障害支援者の配置についてご説明していますが、同時にさらに詳しい説明が必要と考えています。今後は十分な理解が得られるよう契約時に丁寧な説明に努めます。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3	1	2	アセスメントシートに詳しく記載して頂き、確認することになっています。現在、医師の指示書が必要なお子様はいらっしゃいません。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	8	1		ヒヤリハットが発生したときには迅速に報告書を作成し、共有のために職員に回覧し確認印を押して保管しています。いつでも確認できるようファイルで管理しています。